

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月4日

## 【認知症対応型共同生活介護用】

### 【評価実施概要】

事業所番号	2770108971
法人名	社会福祉法人 エージングライフ福祉会
事業所名	グループホームフローラ
所在地	堺市中区福田549-8 (電話) 072-239-4165

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 1月 24日

### 【情報提供票より】(平成 20年 12月 1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	11人	常勤 11人, 非常勤 0人, 常勤換算	11人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造りステンレス 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

#### (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有( ) 円 <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> (200,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / <input checked="" type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

#### (4) 利用者の概要 (平成 20年 12月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	72歳	最高	93歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかはたクリニック、織田訪問歯科、(医) 生長会ベルランド病院、(医) 温心会温心会病院
---------	--

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人が運営するグループホームで、近隣に同法人の特養やグループホームがあり、連携をとりながらサービス向上に取り組んでいます。「個人の意志を尊重し、地域でよりよく生活が継続できる場を目指す」をホームの理念に掲げ、管理者・職員で共有し、実践しています。利用者とともに作る家庭菜園は、地域の方たちとの良い交流の場になっています。管理者は職員が働きやすい職場環境作りにも努め、職員も管理者の考えを理解し、支え合いの協力体制ができています。職員のチームワークが、利用者の穏やかな表情につながっています。隣の診療所に主治医がおり、医療面で安心です。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4) 前回評価での改善課題であった、「新人職員の研修」「週3回程の入浴の実施」「年2回の避難訓練の実施」等は、改善計画を立て改善しています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員全員で取り組みました。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、堺市福祉サービス公社職員・地域の代表・家族の参加のもとで、2カ月に1回開催しています。会議では、ホームの運営状況、行事など報告し、意見交換をしています。会議で出た意見を参考に、AED(自動体外式除細動器)使用方法の研修会へ地域住民に参加してもらうことができました。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 面会時には、家族の希望や意見を聞くよう、話し合いの場を設けています。毎月、利用者の暮らしぶりを家族に報告しています。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会し、日常的な地域とのつながりを大切にしています。利用者とする家庭菜園では、地域住民との交流の場になっています。地域の方が、勝手口から野菜を差し入れしてくれる関係もできました。利用者や職員が小学校の下校時の見守り隊に参加し、地域に貢献しています。地域の方が、ホームにグループホームの利用に関する相談にくるなど、地域に開かれたホームとして活動しています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の意思を尊重し地域でよりよく生活が継続できる場を目指す」という地域密着型サービスとしての理念を掲げ、利用者にもその人らしい生活が実現できるよう支援しています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は明文化して玄関やホーム内に掲示しています。また、管理者は職員が理念を共有し、理念に沿った介護ができていないか会議で確認しています。介護計画作成時にも、理念を意識しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域との日常的なつきあいを大切にしています。利用者と作る家庭菜園では、地域住民との交流の場になっていて、勝手口から地域の方が野菜を差し入れしてくれる関係もできています。自治会に加入し、自治会の行事にも参加しています。小学生の下校時の見守り隊に参加し、地域に貢献しています。ホームの前にあるバス停の掃除も実施する予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果で示された事項については改善しています。今回の自己評価は、管理者と職員全員で取り組みました。外部評価の意義や目的を職員全員が理解し、評価結果をサービス向上に活かしたいとの思いを管理者・職員が共有しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規定を作成し、2ヶ月に1回開催されています。堺市福祉サービス公社職員、地域の代表、家族の参加のもと、ホームの運営状況報告や行事の連絡などの内容になっています。出席者からの意見で、AED（自動体外式除細動器）使用方法の研修に地域住民も参加してもらうことができました。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の福祉サービス公社担当者が相談の窓口になっています。事故報告は、速やかに市に報告しています。また外部評価結果についても報告しています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の生活ぶりや連絡事項を伝えています。また、毎月ホームたよりを作成し、利用者一人ひとりの日々の様子を職員が手書きで書き込み、家族に送付しています。金銭管理に関しては、面会時に残高・収支の報告を行い、承諾を受けています。ただし、面会に来られない家族に対する報告・確認はまだ実施できていません。	○	今後は、面会に来られない家族に対しても定期的に金銭管理の報告を行い、確認を得ることが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時に話し合いの場を作り、意見・要望を聞いています。利用者には、家族の協力をいただきながら、家族・職員が共に協同しながら支援していく体制を作っています。運営推進会議も、家族の意見を出してもらう機会にしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職を最低限に抑えることに力を入れて、馴染みの関係を維持できるように努めています。管理者は、働きやすい職場環境作りや人材育成に努力しています。職員が負担になっていることへの業務改善を積極的に行い、職員は利用者に関わる時間が増えたと喜んでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体やホームでの研修が定期的実施されています。業務会議の後、研修を行っています。今年度は新規採用職員がありませんでしたが、新人研修のシステムを検討中です。外部研修に参加できる体制も整い、資格取得にも職員が積極的になっています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中区グループホーム連絡会に加入しており、情報交換を行っています。今後は同業者間の交流を実施していく予定です。現在は管理者だけの出席になっていますが、今後は職員にも出席してもらい、交流の機会や勉強会を開いていきたいと考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接は、職員が自宅や入所施設を訪問し、利用者の個別把握に努めています。また、ホーム見学の際は家族とともに本人にも来訪してもらい、納得し安心して利用できるような支援を行っています。利用者理解のシート作成には、家族の協力をもらっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は同じ生活空間で生活する関係を大切にしています。職員は利用者には敬意をもって接しています。利用者から、人として大切なことを教えてもらっていることに、職員は感謝しながら日々の支援にあたっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや希望について把握に努めています。また毎日の関わりの中での気づきや発見については、記録に残しカンファレンスしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別ケアを実践するための介護計画を作成しています。介護計画作成に際して、家族の希望を聞き取る配慮もされています。家族の同意も得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用開始から3ヶ月後に見直しを行い、その後は6ヶ月毎に見直しを行っています。状態の変化がある時は、その都度見直しを行っています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	独居生活を送っていた利用者が、グループホームに入居後、職員の見守りのもと包丁を使って調理を行うなど、利用者の潜在力を引き出し、生き生きとした生活を過ごせるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は基本的に、隣接するクリニックの医師による診療を受けています。希望があれば、以前からのかかりつけ医に受診ができ、通院介助を受けている利用者もいます。夜間、主治医のオンコール体制もできています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームで看取りを行う方針はありません。利用者が重度化し、ホームでの生活が困難になった場合には特養で、また医療や看護が必要になった場合は、医療機関で対応してもらうことを入居時に説明しています。現在は口頭での説明のみですが、利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、急変時の対応とホームの指針を作成し、契約時に家族の了解を得ておくことが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては書面で確認し、大声で個人のプライバシーに関する話をしない等、職員一人ひとりが利用者の誇りを傷つけない配慮をしています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活リズムに配慮し、急がすことなく、個人のペースを大切にしています。利用者が、自分の思いやしいことを自由に表現できることを大切にしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食調理済みの食材を業者から取り寄せています。準備や盛りつけ、後片付け等は、利用者も一緒に行っています。月に1回調理レクリエーションとして、メニューを決めることから買い物、調理、後片付けまで利用者も参加して楽しんでいます。家庭菜園で採れた季節の野菜を使つての調理も利用者は楽しみにしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	前回の外部評価より改善を行い、週3回の入浴と利用者が希望すれば毎日でも入浴が可能です。おおよその利用者が週3回以上入浴できています。職員から夜間入浴が実施できないかとの声があがり、検討中です。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居の際には生活歴が細かく記録されています。そして、利用者一人ひとりの能力に応じた役割分担がなされており、食事の支度・カラオケ・将棋・編み物・習字など楽しみごとや力を発揮できる機会を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事への参加や散歩等、必要に応じてできるだけ多く外出できるよう支援しています。近所の美容室や買い物に出かける等、地域に出る機会を多く持つようにしています。近隣の公園や花見にも出かけました。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んで いる	玄関ドアやフロアードアとも、日中の時間帯 は鍵をかけず、見守りだけで対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を 得られるよう働きかけている	前回の改善課題だった防災訓練は年2回、消 防署の協力を得て実施しています。災害マニ ュアルも作成されています。防火管理者講習 会に管理者が参加し、緊急通報電話も設置さ れることになりました。非常用食品の備蓄も 準備しています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	毎日の食事量、水分摂取量については、個人 のケースファイルに詳細を記入しています。 栄養バランスについては、食材業者の管理栄 養士よりアドバイスを受けています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下幅やリビングが広く、日当たりも良い為、全体にゆったりとくつろげる空間となっています。車椅子対応のトイレも別に設けてあり、過ごしやすく配慮されています。リビング以外にも、利用者がくつろげる場所を配慮しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとしての設備はカーテンのみで、利用者は各自使いやすいベッドや使い慣れた馴染みのタンス・椅子・テーブル等を持ち込み、これまでの生活が継続できる居室になっています。居室には、家族の写真やホームでの写真を飾り、個性あふれる居室になっています。		